

算 数

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	算数 1 1 2・1 1 3 2 1 2・2 1 3 3 1 2・3 1 3 4 1 2・4 1 3 5 1 2・5 1 3 6 1 2	B 5 ※ 112のみA 4 1,580	令和5年
4	大日本図書	大日本◆	算数 1 1 4・1 1 5 2 1 4 3 1 4 4 1 4 5 1 4 6 1 4	B 5 ※ 114のみA 4 1,565	
11	学校図書	学 図◆	算数 1 1 6・1 1 7 2 1 6・2 1 7 3 1 6・3 1 7 4 1 6・4 1 7 5 1 6・5 1 7 6 1 6・6 1 7	A B 1,890	
17	教育出版	教 出◆	算数 1 1 8 2 1 8・2 1 9 3 1 8・3 1 9 4 1 8・4 1 9 5 1 8 6 1 8	B 5 1,750	
61	新興出版社 啓林館	啓林館◆	算数 1 2 0・1 2 1 2 2 0・2 2 1 3 2 0・3 2 1 4 2 0・4 2 1 5 2 0 6 2 0	B 5 ※ 120のみA 4 1,610	
116	日本文教出版	日 文◆	算数 1 2 2・1 2 3 2 2 2・2 2 3 3 2 2・3 2 3 4 2 2・4 2 3 5 2 2 6 2 2	B 5 1,806	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

算数

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者の略称
59冊	東書、大日本、学図、教出、啓林館、日文

2 東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の教育課程

【教育課程編成の基本方針】

「次代を担う児童・生徒一人一人の資質や能力を最大限に伸ばさせるとともに、豊かな国際感覚を養い、世界で活躍し貢献できる人間を育成する。」という教育理念を踏まえ、小学校から中等教育学校までの12年間を一体として捉え、児童・生徒の発達等に応じて柔軟な教育課程を編成する。

【算数における学習指導の展開】

- (1) 基礎的・基本的な数量や図形の性質などを理解し、日常の事象を数理的に処理するための方法を知り、技能を身に付けることができるように指導する。
- (2) 探究的な学びの中で、筋道を立てて統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表す力を高めることができるように指導する。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ、よりよく問題解決しようとしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりすることができるように指導する。

3 教科書の調査研究

内容（調査結果は「別紙」）

調査研究項目（調査研究の対象）	対象の根拠
a 日常の事象に関わる数学的内容を取り扱っている問題の扱い	都立小中高一貫教育校教育内容等検討委員会報告書 第2章 令和5年度都立立川国際中等教育学校附属小学校教育課程に係る基本方針（以下、「基本方針」という。）
b 解法の過程や、なぜそのように考えたのかという論理的な思考力の育成を図る課題の扱い	同上
c 具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図りながら、数学的に分析・考察し、論理的な解決を図る課題の扱い	同上
d 多様な方法で問題解決を例示している問題の扱い	同上

※調査研究項目を設定した理由

- a 算数における学習指導の展開(1)では、「基礎的・基本的な数量や図形の性質などを理解し、日常の事象を数理的に処理するための方法を知り、技能を身に付けることができるように指導する。」としている。このことから、数量や図形に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じることができる授業展開とするため、日常の事象に関わる数学的内容がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。
- b 算数における学習指導の展開(2)では、「探究的な学びの中で、筋道を立てて統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表す力を高めることができるように指導する。」としている。このことから、筋道を立てて統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表す力を育成するため、解法の過程や、なぜそのように考えたのかという論理的な思考力の育成を図る課題がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。
- c 「基本方針」の「7(1)ウ 算数」の一つとして、「学んだ内容を算数・数学として体系的に理解し、活用できるようにするため、具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図りながら学ぶ。」としている。このことから、数学的な見方・考え方を豊かにする指導を展開し、具体的な事象の中に数学的な関係を見だし、表現し、考察する能力を伸ばすため、具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図りながら、数学的に分析・考察し、論理的な解決を図る課題がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。
- d 「基本方針」の「7(1)ウ 算数」の一つとして、「解法の過程や、なぜそのように考えたのかという思考の理由について他者と伝え合う活動をとおして思考を深めたり、思考の幅を広げたり、よりよく問題解決できたことを実感したりできるようにする。」としている。このことから、他者と伝え合う活動を通して思考を深めたり、思考の幅を広げたり、よりよく問題解決できたことを実感したりできるようにするため、多様な方法で問題解決を例示している問題がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。

「別紙」【内容 調査研究】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 算数

発行者の番号 略 称		学年	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館	116 日文
内容 a	日常の事象に関わる数学的内容を取り扱っている問題の扱い	第一学年	「なかつくりとかず」の内容について、学校の生活場面の絵を用いて、数や数の構成を具体的に理解できるようにしている。(1P3)	「いくつといくつ」の単元では、7の構成を理解するためにサイコロを題材として問題場面を設定したり、算数ブロックを用いたりして、多様な数の構成があることを捉えられるようにしている。(1P36)	「くらべてみよう」の単元では、ジュースのかさを比べる場面を設定し、かさなどの量を具体的な操作によって直接比べたり、他のものをを用いて比べたりするなど、比べ方を理解できるようにしている。(下P35)	「くらべかた」の単元では、2本の鉛筆の長さを比べる場面を設定し、長さの大小関係は直接比較できることを捉えられるようにしている。(P136)	「おおきさくらべ(1)」の単元では、水筒の容量を比べる問題場面を設定し、同じコップで何杯分あるかを数えるなど、比較や測定の仕事の理解ができるようにしている。(P53)	「どちらがおおい どちらがひろい」の単元では、ペットボトルのかさの違いを比べる問題を設定し、任意単位を用いたかさの比べ方の必要性を理解できるようにしている。(2P92)
		第二学年	「たし算」の単元で、お菓子を2つ選んで買うという場面を設定することで、2けたの数のたし算の問題場面を具体的に捉えられるようにしている。(上P12)	「長さのたんい」の単元では、3人でそれぞれの消しゴムの長さのしおりを作ると、しおりの長さが違うという問題場面を設定することで、普通単位の必要性を実感できるようにしている。(P53)	「時こくと時間(1)」の単元では、町探検の様子について時計を讀んで調べる問題場面を設定し、時間の単位に着目し、時刻や時間の単位やそれらの関係を理解できるようにしている。(上P21)	「かけ算」の単元では、遊園地の乗り物に乗っている人数を調べる問題場面を設定し、乗法が用いられる場面を捉えられるようにしている。(下P4)	「100をこえる数」の単元では、運動会の得点を比べる活動を設定し、数の大小を位の大きい順に比べていく手順を理解できるようにしている。(上P80)	「長い長さ」の単元では、身の回りにある長さをものさしで測定する活動が設定されており、cmよりも大きい単位であるmの単位の意味や役割について理解できるようにしている。(下P56)
		第三学年	「わり算」の単元で、焼きそばやケーキを等しく分けるとい問題場面を設定し、1人分がいくつになるか求めるようにしている。(上P30)	「円と球」の単元で、不公平にならない輪投げ遊びの並び方について考えるという問題場面を設定し、日常生活との関連や実感をもたせながら、円の性質について捉えさせるようにしている。(P102)	「大きい数」の単元では、東京都の人口を問題として扱い、十進位取り記数法についての理解を深めることができるようにしている。(下P25)	「分数」の単元では、1/5Lの麦茶と2/5Lの麦茶を水筒に入れ、あわせて何Lになるかという問題場面を設定し、単位数の何個分かに着目し、整数と同じように同分母分数の加法ができることを説明できるようにしている。(下P44)	「大きな数のしくみ」の内容において博物館の入場者数という問題場面を設定し、1億より大きい数や新しい単位を身近に捉えられるようにしている。(上P61)	「□を使った式」の単元では、はじめにあったいちごの数がわからない場面を設定し、未知の数量を□などの記号を用いて式に表し数量の関係性を捉えられるようにしている。(下P71)
		第四学年	「小数のしくみ」の単元では、水筒に入る水のかさやボールペンのボール径、ごみ収集袋の厚さ等の具体的な場面を示し、0.1より少ない量について興味をもたせるようにしている。(上P72)	「がい数」の単元では、4つの品物を買っていくときに代金の見積もりを立てるとい問題場面を設定したり、日常生活の場面に応じた概数を用い、より効率的に処理したりできるようにしている。(P131)	「しりょうの整理」の単元では、学校のどこで、どんなけがが起きているか調べる問題場面を設定し、身近な事象を二次元の表に表したり読んだりできるようにしている。(上P81)	「がい数」の単元では、恐竜が絶滅した時期や地球が誕生した時期などを、およその数で表している理由について話し合う活動が設定され、概数は目的に応じて用いられていることを捉えられるようにしている。(上P92)	「がい数とその計算」の単元では、サッカーの試合の入場者数を問題場面として扱い、数直線を用いて概数の理解を深められるようにしている。(下P18)	「わり算(1)」の単元では、おかしを配る場面を設定し、日常生活との関連や実感をもたせながら、わり算について理解を深められるようにしている。(上P26)
		第五学年	「平均」の単元では、土をならしたり、飲み物をコップに均等に注いだりする場面を提示することにより、ならすことの意味を理解させるようにしている。(下P18)	「割合」の単元では、ドッジボール大会の成績を比べるとい問題設定をすることで、二つの数量の関係を身近に捉えられるようにしている。(P165)	「割合(1)」の単元では、だれがいちばんシュートの成績がよいかという問題場面を設定し、シュートした数と入った回数をもとに成績を比べられるようにしている。(下P33)	「平均」の単元では、オレンジを5個しぼり、ジュースの量から、1個からとれる量の見当のつけ方の問題場面を設定し、身の回りあるものから平均の求め方について理解できるようにしている。(P131)	「体積」の単元で宅配便の荷物の大きさを調べる問題場面を設定し、体積を求める際に必要な値を捉えることができるようにしている。(P16)	「整数と小数のしくみ」の単元では、富士山の高さとマラソンの走行距離を問題場面として設定し、整数のしくみと小数のしくみの共通点を見出すことができるようにしている。(P12)
		第六学年	「対称な図形」の単元では、身近にあるものの形を提示することにより、対称な図形への理解を促すようにしている。(P8)	「比」の単元では、酢と油でドレッシングを作るという問題設定をすることで、二つの数量の関係を身近に捉えられるようにしている。(P156)	「ならべ方と組み合わせ方」の単元では、走る順番を調べる問題場面を設定し、表や図に整理すると落ちや重なりがなく整理できることを身近に捉えられるようにしている。(P107)	「比」の単元では、ミルクコーヒーをつくる問題場面を設定し、身近なものから比の考えを理解できるようにしている。(P157)	「比例と反比例」の単元では、水槽に水を入れたり、ろうそくに火をつけたりする問題場面を設定し、比例・反比例の関係を捉えられるようにしている。(P154)	「対称な図形」の単元では、建物や雪の結晶など日常の事象から対称性や美しさを見出す場面を設定し、身の回りのものから対称な図形を見出し、その意図や意味を考えようとする姿勢を育むことができるようにしている。(P12)

「別紙」【内容 調査研究】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 算数

発行者の番号 略 称		学年	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館	116 日文
内容 b	解法の過程や、なぜそのように考えたのかという論理的な思考力の育成を図る課題の扱い	第一学年	「たしざん」の内容について、「さんすうのうとをつくろう」という活動を設定し、10のまとまりを作って計算する過程を理解できるようにしている。(2P63)	「ながさくらべ」の単元では、任意単位を用いて長さを比べる活動を設定し、誤った考え方を示し、話し合わせることで、正しい比べ方について問いを見いだすことができるようにしている。(2P63)	「たしざん」の単元では、ブロックを使って説明する活動を設定し、場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようになっている。(下P11)	「たしざん」の単元では、ブロックを動かして10のまとまりを作る活動を設定し、和が10より大きい数になる加法で、数の見方を活用して計算できるようにしている。(P114)	「なんじなんぶん」の単元では、時計の目盛りに合わせて何分を書き込む活動が設定され、時計の読み方を理解できるようにしている。(P112)	「ひきざん」の単元では、算数ブロックを用いて計算の仕方を考える活動を設定し、2位数を十の位と一の位に分けて減加法での計算の仕方を理解できるようにしている。(2P80)
		第二学年	「かけ算(2)」の単元では、図を用いて解法を提示することにより、同じ数のまとまりに着目させるようにしている。(下P41)	「2けたのたし算」の単元では、1位数+2位数の筆算の誤答について話し合うという活動を設定し、数の構成を理解し、正しく計算ができるようにしている。(P31)	「1000までの数」の単元では、ひよこを10羽ずつ線で囲む活動を設定し、10のまとまりで考えたと数し、数の構成を理解し、正しく計算ができるようにしている。(上P88)	「水のかさ」の単元では、2つの水筒に入る水を2種類のコップに入れ替えて、かさをくらべる活動を設定し、普通単位を用いることの必要性に気付き、単位の意味について理解できるようにしている。(上P108)	「たし算とひき算」の単元では、2位数-1位数の仕方について、2位数を10のまとまりとそれ以外の数に分けて考える手順を例示し、繰り下がりのある計算の手順を理解できるようにしている。(上P24)	「たし算とひき算の筆算」の単元では、3つの数のたし算の順番を考える活動が設定されており、()を使った計算の意味や方法について捉えられるようにしている。(上P95)
		第三学年	「かけ算」の単元では、図を用いて解法を提示することにより、既習事項の活用を促すようにしている。(上P15)	「あまりのあるわり算」の単元では、2つの考え方を比較してあまりは余数より小さいことを捉える内容を設定し、あまりの大きさについて考えることができるようにしている。(P91)	「円と球」の単元では、コンパスを使って長さを直線にうつす活動を設定し、ものさしで長さをはからなくても、線の長さをくらべることが理解できるようにしている。(上P110)	「分数」の単元では、2つの分母が等しい場合は分母そのまま、分子同士をたすわけを、数直線を使って説明する活動が設定され、単位分数の何個分かに着目し、整数と同じように同分母の分数の加法ができることを説明できるようにしている。(下P45)	「分数」の単元では、真分数同士の減法の計算の仕方を単位分数のいくつ分かで考える活動を設定し、同分母の分子同士の計算で単位分数を意識できるようにしている。(下P47)	「小数」の単元では、小数のひき算は0.1を基にして考えると、小数も整数と同じように計算できることを捉えられるようにしている。(下P30)
		第四学年	「角の大きさ」の単元では、180度より大きい角度を分度器を用いても直方体や立方体に帰着して考えさせるようにしている。(上P61)	「わり算の筆算」の単元では、十の位の数が割り切れない場合について考える活動を設定し、これまで身に付けた計算の意味や計算の仕方などを活用し、十の位で余った数と一の位の数を合せて計算すればよいと考えさせるようにしている。(P40)	「1けたでわるわり算」の単元では、位ごとに分けて考える計算の仕方を示し、わられる数が2桁又は3桁でも、これまでと同じように筆算でできることの理解を促している。(上P74)	「小数と整数のかけ算、わり算」の単元では、数直線を用いて考える活動を設定し、かけられる数やわられる数も整数の計算と同じように乗法で求められることができることを理解できるようにしている。(下P78)	「小数のかけ算とわり算」の単元では、小数÷整数の計算の仕方を既習事項を使って考える活動を設定し、小数を0.1のいくつ分かに考え、整数÷整数の計算やわり算のきまりと関連付けて捉えられるようにしている。(下P39)	「分数」の単元では、単位分数のいくつ分かを考えると、整数や小数の計算と同じ方法で答えを求められることを理解できるようにしている。(下P68)
		第五学年	「直方体や立方体の体積」の単元では、立体の複合図形の求積においても直方体や立方体に帰着して考えさせるようにしている。(上P21)	「分数のたし算とひき算」の単元では、数直線を用いて考える活動を設定し、表し方が違っていても大きさの等しい分数があることを理解できるようにしている。(P124)	「小数のかけ算」の単元では、かけ算のきまりを使って考える活動を設定し、小数のかけ算でも、かけられる数やかける数を整数になおして考えると、整数と同じように計算することを理解できるようにしている。(上P98)	「合同と三角形、四角形」の単元では、合同な三角形のかき方の過程を例示し、作図するために必要な辺や角に着目できるようにしている。(P68)	「速さ」の単元では、「時速」と「秒速」を比べる方法を理解できるようにしている。(P231)	「小数のかけ算」の単元では、数直線を用いて比例によって考える活動が設定されており、積の見通しやもちやすくなったり、かけ算の意味を拡張しやすくなったりできるようにしている。(P41)
		第六学年	「円の面積」の単元では、既習である四分円や正方形を組み合わせて求積するようにしている。(P127)	「分数のかけ算」の単元では、分数×分数の計算の仕方を考える活動を設定し、分数×整数や分数÷整数の計算をもとに計算できることが理解できるようにしている。(P102)	「分数÷分数」の単元では、面積図や数直線とそれに合わせた表で考える活動を設定し、わる数の逆数をかければ計算できることの理解を促している。(P77)	「円の面積」の単元では、円を長方形として求積する方法を例示し、長方形の縦と横の長さが円のどの部分に対応するか考え、公式を理解できるようにしている。(P113)	「円の面積」の単元では、円を三角形に変形して求積する方法を示し、既習である三角形の面積の公式にあてはめて計算できることを理解できるようにしている。(P97)	「分数のかけ算とわり算」の単元では、単位分数のいくつ分かを考えると、整数や小数の計算と同じ方法で答えを求められることを理解できるようにしている。(P38)

「別紙」【内容 調査研究】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 算数

発行者の番号 略 称		学年	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館	116 日文
内容 c	具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図りながら、数学的に分析・考察し、論理的な解決を図る課題の扱い	第一学年	「わかりやすくせいりしよう」の単元では、「つりげえむ」で釣った数だけ色を塗り絵グラフに表す活動を設定し、集めた資料の結果を観点を決めて比較できるようにしている。(2P32)	「大きなかず」の単元では、10ごとのまとまりがある部分とそうでない部分を合わせたこまの数を数えるという問題を設定し、数を10のまとまりで数えると簡潔明瞭になるというよきや、100の構成を理解できるようにしている。(2P101)	「たすのかな ひくのかな ずにかいてかんがえよう」の単元では、何人並んでいるかを図に表す活動を設定し、加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりできるようにしている。(下P63)	「いくつかな」の単元では、1～5までの整数について具体物、ブロック、数を対応させる活動を設定し、個数を正しく数えたり、個数を数字を用いて表したりできるようにしている。(P10)	「ものひとつのかず」の単元では、人が並んでいるイラストをドット図で表現するなど、立式につながる活動を例示し、順序数が含まれる場面でも加法や減法を用いることができるようにしている。(P92)	「かずをせいりしよう」の単元では、動物カードの数をグラフにする活動が設定されており、種類ごとに分類整理することで即時に数の大小を比べることができるようになっている。(2P29)
		第二学年	「たし算とひき算」の単元では、はじめにあったジュースの本数を求める場面をテープ図を使って考える問題を設定し、図で全体と部分を考えられるようにしている。(下P75)	「せいりのしかた」の単元では、花の種類ごとにそれぞれの花の数を表やグラフを用いて整理し、何の花を植えるか考え、身の回りの問題場面から考察する力を育成できるようにしている。(P21)	「たし算とひき算(2)」の単元では、場面に合わせて図をかく活動を設定し、加法と減法との相互関係について理解できるようにしている。(下P93)	「表とグラフ」の単元では、好きな遊びを調べ、分類整理して簡単な表に表す活動を設定し、データの特徴を読み取ることができるようにしている。(上P14)	「見方・考え方をふかめよう」の単元では、問題文からテープ図、式を書く活動を設定し、図の使い方について例を示し、立式につなげられるようにしている。(上P70)	「ひょうとグラフ」の単元では、メダル数を表やグラフに表す活動を設定し、分類整理して特徴が視覚的に捉えやすくなるようにしている。(上P13)
		第三学年	「小数」の単元では、数直線を用いた考えを例示することで、小数は整数と同じ仕組みであると理解することができるようにしている(下P26)	「ぼうグラフと表」の単元では、1目盛りの数が違う棒グラフを比較し、正しい読み取りについて考える活動を設定し、正しく読み取ったり、考察したりする力を育成することができるようにしている。(P55)	「表とグラフ」の単元では、学校の前を通った自動車の記録を「正」の字を用いて調べる活動を設定し、表に表して分類整理したり、表を読みだりできるようにしている。(上P77)	「倍の計算」の単元では、倍の計算の仕方をテープ図に表して説明する活動を設定し、何倍かを求めるためには、かけ算やわり算を使うことを理解できるようにしている。(下P106)	「あまりのあるわり算」の単元では、問題場面や解決方法をブロックを操作して表す活動を設定しており、あまりの数を理解し表現できるようにしている。(上P103)	「時間の計算と短い時間」の単元では、時刻の求め方を数直線やテープ図で表し、時間の単位に着目し時刻や時間の求め方について理解できるようにしている。(上P39)
		第四学年	「折れ線グラフと表」の単元では、日本と海外の気温の違いを比較する活動を設定し、表や折れ線グラフに表すことで、月ごとの気温の特徴や傾きの変化に着目しやすくなるようにしている(上P20)	「折れ線グラフと表」の単元では、1週間のけがの記録を表に整理する活動を設定し、集めたデータを分類整理し、導いた結論について考察できるようにしている。(P27)	「分数」の単元では、数直線を基に分数の大きさを調べる活動を設定し、分母と分子が違っても、大きさの等しい分数があることが数直線によって表現できるようにしている。(下P105)	「折れ線グラフ」の単元では、1時間ごとの気温の変化を折れ線グラフに表す活動を設定し、2つの折れ線グラフを同時に表すと変わりがいについて比べやすいことに気付けるようにしている。(上P48)	「2けたでわるわり算の筆算」の単元では、九九の範囲をこえた計算を十円玉の図を用いて式と場面を関連付けながら解決を図る活動を設定している。また、既習の計算と結びつけて答えを求めることができるようにしている。(上P105)	「面積」の単元では、複合図形の面積を様々な方法で求める活動を設定し、図から立式したり、式を読んで図を考えたりする学習ができるようにしている。(下P48)
		第五学年	「小数のわり算」の単元では、1mのリボンの値段を求める問題を数直線を用いて考える問題を設定し、小数で表されている数値でも整数のとときと同じようにわり算の式を立てて考えられることを理解できるようにしている。(上P53)	「帯グラフと円グラフ」の単元では、グラフの選び方についての活動を設定し、調べる目的に応じてどのグラフを選択すればよいか考察できるようにしている。(P188)	「正多角形と円」の単元では、辺の長さや角の大きさを表にまとめて考える活動を設定し、正多角形のきまりを捉えることができるようにしている。(下P76)	「単位量あたりの大きさ」の単元では、シートを広げた時の込み具合を求める問題場面を設定し、シートの枚数と人数の関係に着目して表や図で表し、説明できるようにしている。(P143)	「割合(2)」の単元では、問題場面を何をもとにする量とみるかを明確にするために線分図に表す活動を設定し、分かっている数値と求める割合を関連させて表現できるようにしている。(P176)	「帯グラフと円グラフ」の単元では、本の貸出冊数を帯グラフと円グラフにする活動を設定し、表では捉えにくいデータの特徴を捉えることができるようにしている。(P230)
		第六学年	「データの調べ方」の単元では、長縄の8の字とびの大会で優勝できるかどうかを考える活動を設定し、観点を決めてデータを捉えるようにしている。(P100)	「データの活用」の単元では、紙飛行機大会の選手を決めるという活動を設定し、データの特徴や傾向に着目して代表値等を用いて問題の結論について判断し、その妥当性を批判的に考察できるようにしている。(P80)	「資料の整理」の単元では、現在と15年前の新体力テストの結果を代表値やドットプロットを用いて比べる活動を設定し、データの特徴を捉えられるようにしている。(P91)	「分数と整数のかけ算、わり算」の単元では、2/7Lを図に表す活動を設定し、1/7Lをもとにして整数のかけ算を使って考えられるようにしている。(P25)	「円の面積」の単元では、円の面積を8等分、16等分、32等分、64等分と図で示して公式をつくる活動を例示されており、円の面積の公式の意味を理解できるようにしている。(P92)	「文字と式」の単元では、式と線分図を相互に関連付ける活動を設定し、文字の値を求める方法を図で理解できるようにしている。(P32)

「別紙」【内容 調査研究】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 算数

発行者の番号 略 称		学年	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館	116 日文
内容 d	多様な方法で問題 解決を例示してい る問題の扱い	第一学 年	「たしざんとひきざん」の単元では、自分の前に4人、後ろに3人並んでいるときの総人数を求める問題場面を設定し、解決方法を複数例示することで、場面や考えた方法を理解することができるようにしている。(P118)	「ずをつかってかんがえよう」の単元では、図から導かれた式について考えるという問題解決を例示することにより、式の意味を考えたり、多面的に問題を捉えたりする力を育成できるようにしている。(P120)	「ひきざん」の単元では、ひかれる数を分けたり、ひく数を分けたりする活動を例示し、減加法と減法の計算の仕方を理解し、数の大きさに従い必要に応じて対応できるようにしている。(P23)	「ひきざん」の単元で、12-3の計算の仕方を、ひく数を分解したり、ひかれる数を分解したりする方法を例示し、既習の数の見方を活用すれば(何十)-(1位数)で繰り下がりのある減法を計算できるようにしている。(P129)	「大きいかず」の単元では、日常の買い物場面、代金をどの硬貨を使って支払うか考える活動の例示があり、一つの数量を多様に捉えることができるようにしている。(P107)	「どちらがながい」の単元では、机の横の長さが指の間隔や鉛筆のいくつ分かを測る活動を設定し、長さを数で表すことを理解できるようにしている。(P51)
		第二学 年	「3けたの数」の単元では、「780はどんな数かせつ明しましょう」という問題を設定し、複数の考えを示すことで、数の多様な見方を養うようにしている。(P59)	「2けたのたし算」の単元では、2位数+2位数について複数の考えを示し、共通点を見付ける活動を設定し、数の構成の理解や筆算形式へと学びを発展できるようにしている。(P27)	「分数」の単元では、等分の仕方を複数例示し、分数の大きさや表し方の理解を深めるようにしている。(P54)	「かけ算九九づくり」の単元では、式や図を使って考えを説明する活動が設定され、多様な考えで数のまとまりに着目して様々な考えができるようになっていく。(P42)	「かけ算(2)」の単元では、箱の中のチョコレートの数を数える活動を設定し、数のまとまりを様々な視点で捉え、かけ算の立式につなげて答えを求めることができるようにしている。(P36)	「水のかさ」の単元では、異なる入れ物による間接比較の場面を取り上げ、普遍単位を用いた表現のよさや必要性に気付くことができるようにしている。(P104)
		第三学 年	「大きい数のしくみ」の単元では、「16000は、どのような数といえるでしょうか」という問題を設定し、複数の考えを示すことで、数に対する様々な見方を養うようにしている。(P101)	「分数」の単元では、同分母分数同士のたし算の考え方を比較する活動を設定し、単位分数の大切さや割合へとつながる「もと」の考えを理解できるようにしている。(P186)	「かけ算」の単元では、7×6の計算を行うときの考え方を複数例示し、問題を図で表わすなど、かけ算のきまりに気付きやすくしている。(P15)	「かけ算のきまり」の単元では、同じ問題において計算の順番が異なる2つの式を説明する活動を設定し、かけ算の結合のきまりを理解できるようにしている。(P21)	「□を使った式」の単元では、問題場面を□を使った式に表して、□にあてはまる数を見付けたり、線分図に表したりして、立式できるようにしている。(P94)	「かけ算」の単元では、7×8の計算を行うときの考え方を複数例示し、問題を図で表すなど、かけ算のきまりに気付きやすくしている。(P17)
		第四学 年	「小数のしくみ」の単元では、「1.75+2.64」という問題を設定し、小数の構成について複数の考えを示すことで、小数に対する多様な見方を養うようにしている。(P82)	「面積」の単元では、複合図形を分けたり、補ったりする活動を例示し、図形を様々な視点で捉え、正方形や長方形に帰着して考えて面積を求めることができるようにしている。(P198)	「面積」の単元では、複合図形を様々な視点で捉え、既習の図形に分けたり変形したりすれば、面積を求めることができるようにしている。(P63)	「面積」の単元では、複合図形の面積を2つの長方形に分けたり、大きな長方形の面積から小さな長方形の面積を引いたりして答えを求められる活動を例示し、図形を構成する要素に着目し、既習の図形の面積の求め方を活用して、図形の面積を求めることができるようにしている。(P18)	「2けたでわるわり算の筆算」の単元では、桁数の大きいわり算の解決方法を複数例示することで、既習の学習と関連付け、順序よく計算したり、わり算の性質を理解したりできるようにしている。(P114)	「小数」の単元では、8.51を0.01のいくつ分と見たり、整数部分と小数部分に分けて見たりと小数の見方を複数例示し、小数を様々な視点で理解できるようにしている。(P103)
		第五学 年	「合同な図形」の単元では、合同な三角形の作図の方法を複数示すことにより、図形を構成する要素に着目させるようにしている。(P78)	「体積」の単元では、立体の複合図形の求積で図形を分けたり、補ったりする活動を例示し、図形を多様な視点で捉え、立方体や直方体に帰着して考えれば体積を求めることができるようにしている。(P64)	「単位量あたりの大きさ(1)」の単元では、シート1枚分にとれだけ人数がいるか、1人がどれくらいシートを使えるかで比べる活動を例示することで、シートや人数の枚数をそろえ、混み具合を比べることができるようにしている。(P78)	「四角形や三角形の面積」の単元では、三角形の面積の求め方を複数例示し、図形を分けたり、補ったりすることで既習の図形に帰着して考えることができるようにしている。(P212)	「体積」の単元では、立体の複合図形の体積の求め方を複数例示することで、既習の学習と関連付けて、多様な解法で求めることができるようにしている。(P22)	「割合」の単元では、30%引きの値段を求める方法を複数例示し、割合を用いた計算の仕方の理解を深めることができるようにしている。(P222)
		第六学 年	「分数×整数、分数÷整数、分数×分数」の単元では、式や面積図による解法の例を複数示すことにより、計算の仕方や分数をかける意味の理解を促すようにしている。(P41)	「円の面積」の単元では、円と正方形で構成された図形の面積を求める活動を設定し、図形を様々な視点で捉え、これまでに学習した形を組み合わせて考え、面積を求めることができるようにしている。(P52)	「ならべ方と組み合わせ方」の単元では、4チームのリーグ戦の総試合数について図や表を用いて考える活動を例示することで、起こり得る場合を落ちや重なりなく数えることができるようにしている。(P112)	「拡大図と縮図」の単元では、拡大した三角形の作図の仕方を複数例示することで、作図に必要な辺や角度に着目できるようにしている。(P177)	「分数×分数」の単元では、計算方法を面積図や式の変形で考えを例示しており、分数同士のかけ算の仕組みを理解できるようにしている。(P44)	「角柱と円柱の体積」の内容において、既習の体積の求め方を基に、三角柱の体積の求め方を複数例示することで、公式の理解を深めようとしている。(P125)

